uchida Title:道へき・複連　128号.ec6 Page:6 Date: 2007/03/14 Wed 22:04:47

研　究　部　報　告

副委員長　瀬川明廣

1．研究主題

自ら創造的に学び　豊かな心でたくましく郷土を拓く子どもの育成

～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かし、一人一人の児童生徒に「新たな時代を生き抜くための力」を育む学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

2．研究活動の重点と成果

道へき・複連の第7次長期5か年研究推進計画の3年次目として、趣旨･内容等の一層の普及浸透を期すとともに、へき地複式教育の実践と理論の統合を図り、課題の解明に向けた共同研究の充実に努める。

（1）共同研究体制の強化と実践研究の充実
（2）全道へき地複式教育研究大会の効果的な開催
（3）第7次長期5か年研究推進計画の研究体制・研究内容の普及浸透
（4）実践研究の積み上げと研究成果の整理
（5）「研究部情報」の編集と発行
（6）教育関係各機関・団体との連携
（7）第8次長期研究推進計画の策定準備

《おもな成果》

◎第55回全道へき地複式教育研究大会根室大会

9月14日・15日、根室管内8会場で開催され、全道各地から678名の参加者があった。大会スローガン「豊饒の海と緑の大地に生き　根室の未来を拓く子らに豊かな心と確かな学力を！」のもと熱意と創意に満ちた授業公開と研究協議で大きな成果を上げた。道へき・複連五十余年の伝統が脈々と息づいていることを確認することができた大会であった。

◎第56回全道へき地複式教育研究大会空知プレ大会

9月～11月、空知管内9会場（10分科会）で開催され、のべ602名の参加者があった。大会スローガン「緑の大地に生きる空知の子らに豊かな心と確かな力を」を合い言葉に、地域に根ざした特色ある教育活動を展開した。社会の変化による旧産炭地域の厳しい環境にめげず新しい時代を拓こうと努力している姿が見えた大会であった。19年度本大会に向けての成果が期待される。

◎第22回北海道へき地複式教育実践研究発表大会

10月17日、ホテルライフォート札幌において開催され、総勢62名の参加があった。

道内4地区からの第7次長期5か年研究推進計画に基づいた実践研究の提言について、質の高い研究協議が展開され、その成果を全道各地域に還流することができた。また、へき地教育研究センターの村田育也研究員より，「今後の学校教育における情報モラル教育・情報安全教育の進め方について」の講話をいただくことにより，情報教育に関する有意義な研修を行うことができた。

◎第7次長期5か年研究推進計画の普及浸透

道へき・複連の第7次長期5か年研究推進計画の3年目として、課題の解明と解決に向けた実践的研究を基盤に、これまでの長期・課題別・共同研究方式を継承した研究の普及に務めた。

3．研究部事業報告

5月22日　第1回企画・長計策定委員会
・日程及び業務内容の確認と役割分担
・研究推進委員会の協議内容検討
・第8次長計策定の全体構想

5月22日～23日　第1回研究推進委員会
・平成18年度研究部計画の確認
・研究推進委員会の組織構成の確認
・研究推進委員の業務・役割分担
・全道へき地複式教育研究大会根室大会の助言者の決定
・全道へき地複式教育研究大会空知プレ大会の助言者の決定
・平成18年度研究主題一覧
・指導形態等調査結果の取りまとめ
・各管内へき・複連の活動状況の交流

7月3日　第2回長計策定委員会
・策定計画の作成と役割分担の決定
・執筆内容についての検討

7月3日～4日　第2回研究推進委員会
・各地区研究主題一覧
・指導形態等調査資料発行
･研究部情報第1号の発行（各管内にCD1枚配布）
・全道へき地複式教育研究大会後志大会・根室プレ大会への協力
・第22回教育実践研究発表大会の運営と役割分担
・各管内へき・複連の活動状況の交流

9月14日～15日　第55回全道へき地複式教育研究大会根室大会
・根室管内8会場（助言）

9月～11月　第56回全道へき地複式教育研究大会空知プレ大会
・空知管内9会場（10分科会助言）

10月16日～18日　第3回研究推進委員会
・根室大会、空知プレ大会の概要並びに助言報告
・道へき複教育実践研究発表大会の運営・反省

10月18日　第22回北海道へき地複式教育実践研究発表大会

1月12日　第2回企画委員会・第4回長計策定委員会
・次年度の研究推進体制　・内容
・第8次長計分野目標と課題についての検討

2月15日　第5回長計策定委員会
・各執筆担当部分の内容の協議と校正

2月15日～16日　第4回研究推進委員会
･研究部情報2号の発行（各管内にCD1枚配布）・18年度事業反省
・まとめ
・19年度研究計画